



## 6月3日から、ワシントン条約の会議が開催されています。

6月3日～15日、第14回ワシントン条約締約国会議がオランダのハーグで開催されています。トラフィック イーストアジア ジャパンは、締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信することにしました。会議に関する正確な情報の入手や取材の参考としてお役立てください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

今回は、ヨーロッパウナギ *Anguilla anguilla*、サンゴ *Corallium* spp. の附属書への掲載が提案されています。

## ウナギの種類とウナギの養殖

© TRAFFIC East Asia-Japan



- ウナギ属 *Anguilla* は、15～17種。
- 主に食用となるウナギは世界で4種。  
ヨーロッパウナギ *Anguilla anguilla* のほかアメリカウナギ *A. rostrata* / shortfin eel *A. australis* / ニホンウナギ *A. japonica*
- 世界で取引されている食用ウナギの95%は養殖。天然のシラスウナギを採取し、成長させる方法をとる。
- 主要なウナギの資源量が減少する一方で、1990年代なかばに世界のウナギ生産量が増加。

ヨーロッパウナギ *Anguilla anguilla*

海水と淡水を行き来する回遊魚。アメリカウナギと同じ、サルガッソー海で産卵する。



## 国際取引

- 1997年 ヨーロッパウナギのシラスウナギの世界の取引市場規模：概算3千万ユーロ（約50億円）
- 養殖用としてヨーロッパからアジアへの輸出がシラスウナギ取引の中心

## 資源量の減少

- 分布域の大部分で漁獲が減少
- 12カ国19河川での調査で1980年～2005年までにシラスウナギの採集量が平均95～99%減少。

主な脅威：過剰漁獲のほか、生息地の消失/回遊阻害/汚染/寄生虫・伝染病

## 今回の提案

提案18 [提案国：ドイツ (EUを代表して)]  
ヨーロッパウナギ *Anguilla anguilla* の附属書Ⅱへの掲載  
→トラフィックはこの提案に賛成している。

## 日本人とヨーロッパウナギ

- 日本は世界のウナギの半分以上を消費 (1999年・原魚換算\*したもので世界の総生産の57%)
- 日本で養殖されるウナギの多くはニホンウナギ *A. japonica*
- 国内のウナギ製品の約8割は輸入 (うち約7割は中国から) (2006年)
- 蒲焼など加工製品としての輸入品にはヨーロッパウナギが含まれていると考えられる。

\*内臓除去、塩蔵、乾燥等、様々な処理・加工がほどこされた形の魚介類の重量を、処理・加工される以前の元の重量に換算すること

## 関連ウェブサイト

トラフィックネットワーク(英語) : [www.traffic.org](http://www.traffic.org)  
トラフィックジャパン(日本語) : [www.trafficj.org](http://www.trafficj.org)  
トラフィックイーストアジア(中国語) : [www.wow.org.tw/](http://www.wow.org.tw/)  
ワシントン条約事務局(英語) : [www.cites.org](http://www.cites.org)

## 造礁サンゴと宝石サンゴ

サンゴは、刺胞動物門、花虫綱あるいはヒドロ虫綱に属する動物。大きくはふたつのグループに分かれる。

- 「造礁サンゴ」(reef corals) といわれるサンゴ  
→サンゴ礁を形成する。
- 「宝石サンゴ」(precious corals) といわれるサンゴ  
→赤やピンクなど美しい色で、宝石に用いられる。



© Farfasc,MCBI

サンゴ属 *Corallium* spp. は、宝飾品として価値の高い宝石サンゴを多く含む。特に地中海のベニサンゴ *Corallium rubrum* は古くから価値のあるサンゴとして知られる。

サンゴ属全種 *Corallium* spp. とは

サンゴ属 *Corallium* spp. は26～31種  
世界の熱帯・亜熱帯・温帯海域に分布

## 国際取引

- 地中海や日本近海を含む西太平洋で採取され、世界中で売買される。
- 用途は、経済的価値が高い宝飾品・工芸品、小規模だが伝統薬にも。
- 現在、国際取引規制はおこなわれていない (生息国の間で管理に一貫性がない)。

## 資源量の減少

- 遅い成長・成熟、長い寿命、低い繁殖力など、過剰採取に影響を受けやすい生活史。
  - 生息地全域で、群生の減少・消失、群生サイズ縮小や若齢化、採取量の減少がみられる。  
例：地中海のベニサンゴ *C. rubrum* の採取が1985年～2001年にかけて66%減少。
- 主な脅威：過剰採取

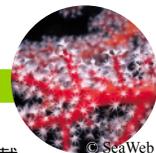


© SeaWeb

## 今回の提案

提案21 [提案国：米国]  
サンゴ属 *Corallium* spp. の附属書Ⅱへの掲載

→トラフィックはこの提案に賛成している。



© SeaWeb

## 日本の宝石サンゴ

- 日本近海にも宝石サンゴが分布 (高知県や長崎県、鹿児島県などで採取・取引される)。
- アカサンゴ *Corallium (Paracorallium) japonicum*、モモイロサンゴ *C. elatius*、シロサンゴ *C. konjoi* の3種は宝石サンゴとしての価値が高く評価されている。

トラフィックジャパンの  
ここに注目

日本にもなじみ深い  
ウナギやサンゴが  
世界的な議題に